

旬の阿蘇あそび

雄大な自然が広がる阿蘇だからこそ、季節に応じて彩り豊かな表情を見せます。
ここでは、この時期にぜひ見ていただきたい阿蘇の旬の情景を紹介します。

うんかい 雲海「空中散歩」

一度は見たい 大自然がつくりだす絶景

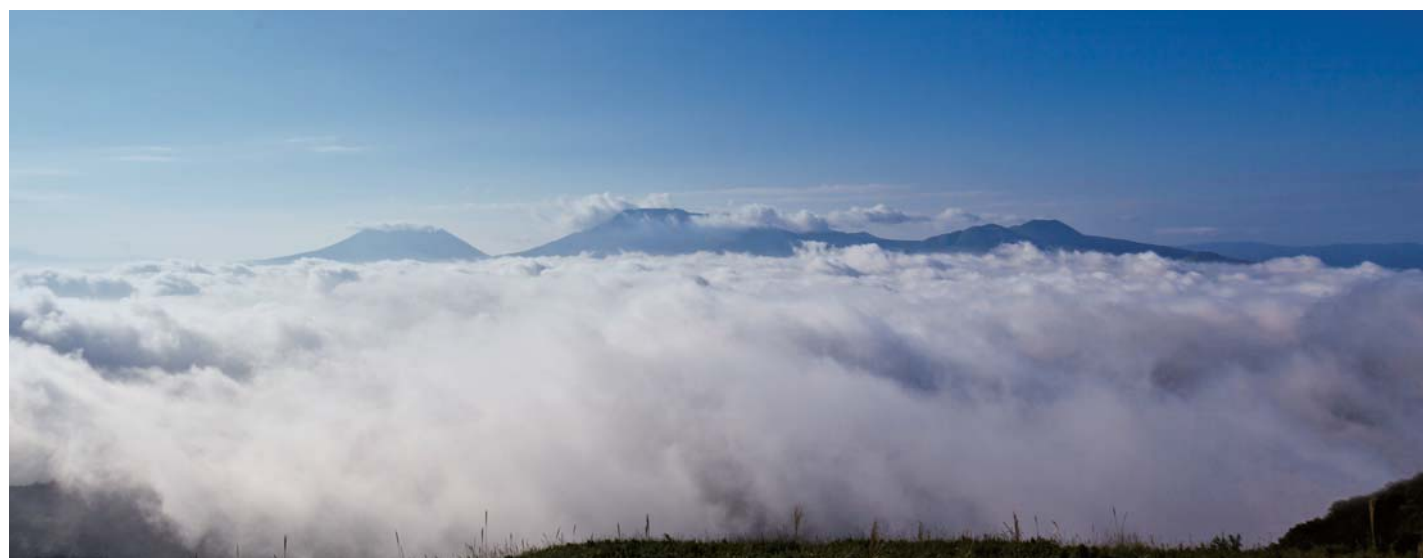
阿蘇の秋の風物詩のひとつに雲海があります。お椀状に広がるカルデラの広大な地形が、カルデラ内の空気をその場に留めさせることで、壮大な雲海をつくりだします。とりわけ世界に誇るカルデラをもつ阿蘇の雲海は日本でも屈指の美し

さ。ただし、雲海の出現にはいくつか必要な条件が。前日の夜に低気圧が通過して、空気が湿り、朝方にかけて十分な放射冷却があって、風がほとんどない、早朝、というもの。それらがすべてうまく揃う機会は、なかなかそうありませんが、それらが揃って生まれる雲海の景色は、まさに筆舌に尽くしがたい美しさといえます。その言葉の通り、壮大な雲の海が眼下に広がり、ほわりとした白い雲の中から浮き島のようにそびえる阿蘇山の涅槃像は、なにか物語のワンシーンよ

う。大観峰の大パノラマから眺めるのもまたさらに圧巻です。雲海が出現する朝は冷え込むことが多いので、しっかりと暖かい服装をして、阿蘇の絶景を楽しみましょう！

『阿蘇インターネット放送局WebTV-アソ』
雲海動画を見よう！

阿蘇インターネット放送局
WebTVアソ



レンタサイクル情報 RENTAL CYCLE INFORMATION

阿蘇はレンタサイクルの環境も充実しています。旅行で訪れ、移動手段として活用したい時も、自転車でしっかり遊びたい時にも、ニーズにお応えできる施設や店舗が揃っています。ぜひ、お気軽にご利用ください。

阿蘇インフォメーションセンター

【住所】阿蘇市黒川1444-2(JR阿蘇駅構内)
【定休日】なし
【TEL】0967-34-1600
【時間】9:00~18:00
【料金】300円(2h)/500円(4h)/800円(8h)
【台数】10台(マウンテンバイク5、電動アシスト自転車5)



CLAMP

【住所】阿蘇市内牧48
【定休日】木曜日(祝日除く)
【TEL】0967-32-0928
【時間】10:00~18:00(返却は17:00まで)
【料金】1,600円(3h)/2,700円(6h)
【台数】40台
【その他】マウンテンバイクスクールあり



一の宮インフォメーションセンター

【住所】阿蘇市一の宮町宮地1934-1
【定休日】なし
【TEL】0967-22-8181
【時間】8:30~17:00
【料金】300円(2h)/500円(4h)/800円(8h)
【台数】6台(電動アシスト自転車)



TAKE
FREE

ご自由にお持ち帰り
ください

AsoBo Aso

九州有数の観光地・熊本県阿蘇を
自転車で駆け巡るフリーペーパー

『あそぼあそ』

第四号

2017
October

04



P4-5 STORY
自転車もん語り
松山 直樹さん

P6 LANDSCAPE
風景ハンター
外輪山のすすき

P7 GOURMET
阿蘇のうまいもん
果物 カップルズ

P7 SOUVENIR
とっておきみやげ
ASO MILK

P8 PLEASURE
旬の阿蘇あそび
雲海(空中散歩)

人がつながり創り出す
 新しい阿蘇!!

阿蘇サイクリストコンソーシアムメンバー

コンソーシアム(Consortium)は共同事業体!!

互いに力を合わせて目的に達しようとする組織と人々の集まりです。

【メンバー紹介】

トレイルボックス	仲間浩一
正屋(株式会社ジラボ)	岩崎正史
クロスロードバイク	宮本利徳
ALWAYS BICYCLES	長田大介
Playing Factory Mitsui	三井寿展
大藪サイクル	大藪建二
熊本県サイクリング協会	高田吉彦
茶のこ	松崎 猛
トリムカンパニー	橋本幸太
Nao's BASE	松山直樹
蘇山郷	中尾公一
CLAMP	高野恭司
ASO田園空間博物館	下城卓也



阿蘇サイクルツーリズム学校「コギダス」協議会メンバー

協議会メンバーは、地元の様々な団体から、地域住民の意見を事業に反映するため、集まったメンバーです。

- ・環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所
- ・くまもとDMC
- ・阿蘇ネイチャーランド
- ・エスティ環境設計研究所
- ・CLAMP
- ・阿蘇青年会議所
- ・Nao's BASE
- ・阿蘇市商工会青年部
- ・ASO田園空間博物館
- ・阿蘇市観光協会
- ・なみの高原やすらぎ交流館
- ・阿蘇市経済部観光課
- ・阿蘇テレワークセンター
- ・阿蘇ジオパーク推進協議会
- ・火の山スポーツクラブ
- ・狩尾デザイン



阿蘇コギダス活動のビジョン×4C

1. Collaboration ~地域のために協働で~
2. Challenge ~義損概念に捉われない新しいチャレンジ~
3. Customer ~お客様視点~
4. Commitment ~ビジョン実現のためにやりきる~

阿蘇の外輪山は、カルデラに暮らす人々にとって自らの矜持を渡し固める紗幕であり、旅人にとって日常世界を転換させる結果線である。その外輪山を際立たせるのが稜線に広がる草原、そして悠久の時間である。大気はそよぎ、草は芽吹き、水は循環し、そして人々の希望がきらめく。人々はその緑香る高みに身を置くと、心を鎮め、人生を遠望する。まるで大きな力

に抱擁されるよう、安寧の心持ちから新たな光明、澄みわたる救済を得ることができる。人生観あるいは死生観。阿蘇のカルデラもまた巡りゆく時間の一断面をなす。比類なき自然と人々が折り合いをつけてきた阿蘇カルデラは、単に景勝地であることを超え、命魂の蘇生をことごとく別天地であることを世界へ訴求する。

乗る楽しさ、駆け抜ける魅力。多くの人々を惹きつけてやまない「自転車」という存在。
これは、阿蘇という土地ならではの自転車の楽しみ方を、自転車好きのみなさんに語っていただくコーナーです。



自転車の楽しみ方 もっと広く伝えたい。



よにんめ 松山 直樹 さん

Naoki Matsuyama

Nao's BASE

<https://www.facebook.com/funride.nao/>

人生を変えた 先生のジャンプ

“バイクトライアル”と呼ばれる、岩、壁などが設定された障害物コースを足をつかずにクリアしていく競技があります。僕はその競技の“ステージパフォーマー”をしていて、みなさんからはNaoと呼ばれています。パフォーマンスは各地で開催されるステージイベントで行っています。例えば、前輪を上げ、ウィリーをしたまま障害物を登ったり、間隔の空いた地面と地面との間を自転車と一緒に飛びこえて着地したり、そういったアクロバティックなパフォーマンスのステージショーです。また、内牧で『Nao's BASE』というサイ

クルショップを営業し、自転車の修理、販売のサービスも行っています。

僕が“バイクトライアル”の世界に入ったきっかけは、高校二年のときです。ある時、通っていた塾の先生が道路の脇で自転車にまたがっていたんですが、その先生がふと、自転車の向きと平行に伸びる高さ15センチ位の段差の上に、自転車ごと、真横にひょいっとジャンプをして飛び乗ったんです。それを見て、僕はあまりに驚きました。そして、そのとき先生が繰り出した真横へのジャンプが“バイクトライアル”という競技の技であることを、僕はその先生から教えてもらったんです。それが、すべての始まりです。

自転車を通して 地域とのつながり

阿蘇には15年前に引っ越してきました。移住を決めたのは阿蘇の熱気球イベントでステージパフォーマンスに毎年呼んでもらっていたのがきっかけです。自然の美しい阿蘇が気に入って、また人の縁などもあり、この地で暮らすことを決めました。サイクルショップを開業したのは4年前です。その当時、実は「自転車屋だけはやりたくない」とずっと思っていました。というのも、その頃の僕にとって自転車というのは「乗って楽しむことが目的」のものであって「扱うことが目的」ではなかったからです。でも、これは不思議なん

ですが、今では「もっと早く自転車店を開いていればよかったな」とさえ思うようになってきました。それは自転車屋としての自分が、自転車というものを通して、地域や社会に『なんらかの形で貢献させてもらっている』という実感を確認な喜びとして自分の中に感じるからなんです。

少しずつ 思いは形になってゆく

今年4月から、阿蘇のサイクルツーリズムの多面的発展を目的として『コギダスプロジェクト』が発足しました。僕はその実行委員で、会長という役を務めています。会議では阿蘇地域と自転車とのつながりを軸に、いろいろな意見、考えが提案されています。さしあたり僕が、このプロジェクトで一番に実現したいことは「阿蘇地域に自転車の文化を根付かせる」ことです。サイクルツーリズムにあたっては、僕は、地域への自転車文化の浸透という側面は非常に大切だと考えています。そしてそれを

実現するためには、なにより、地域の子供たちに自転車の楽しさを知ってもらうことが大切だと考えます。今、それが少しずつ形となって、コギダスプロジェクトの『マウンテンバイクで自由に遊べる公園』の計画が始まっています。設計では僕がバイクパフォーマーとして培ってきた経験、知識を活かしていきたいと思っています。そしてそれは、僕だからこそできる、地域貢献へつながった仕事だとも考えています。

また、自転車、と一口に言っても、実はその中にいろいろな種類、機能性があるんですね。ロードバイクが舗装路面を走るのに適しているように、でこぼこのダートを走るのに適したマウンテンバイクがあって、その両方を兼ねたクロスバイクや、その他もあります。つまり、さまざまな用途によって、自転車というのはその楽しみ方、遊び方が変わっていい、ということです。だからこそ、自転車は本当に楽しい。僕はそれを、ぜひみなさんに知ってもらいたいし、広めたいと思っ

ています。自転車が阿蘇という地域のなかに、今よりもっと溶け込んだものになれば嬉しいですね。



PROFILE

松山 直樹 まつやま なおき

ステージイベントで自転車でのアクロバットパフォーマンスを行うバイクトライアルパフォーマー。また、内牧のサイクルショップNao'sBASEオーナー。阿蘇サイクリストコンソーシアム委員。現在、コギダス実行委員会の会長を務める。



自転車で走るとじっくり楽しめる、阿蘇ならではのさまざまな魅力的な風景。
ちょっと立ち止まって、自分の足でも歩いてみたり、体験したりしてみませんか？



大草原に広がる金色の絨毯

秋の外輪山がみせる 空とすすきの風景

秋が深まるにつれ、ところどころで美しいすすきの景観を楽しめるようになりました。阿蘇外輪山でも、一面に広がるのすすきの絨毯が見頃を迎え、見る人の心を楽しませてくれます。すすきはまたの名を“尾花（おばな）”といい、秋の七草のひとつに数えられています。ふわりと穂をたらし揺れる姿が、動物のしっぽに似ていることからそう呼ばれるようになったのだそう。たしかに、馬のしっぽのようでもありますね。また、すすきは一般的に“茅（かや）”とも呼ばれ、人は古くからすすきを、茅葺の屋根や、家畜の餌として、生活

の中に上手に利用してきました。そんな、人々に身近なすすきですが、その身近さゆえ、外輪山のすすきの風景も、阿蘇の自然が生み出した景観のひとつとして、見る人は感じ取るかもしれません。しかし、じつはこのすすき草原の成り立ちは、阿蘇の人々が古くから行ってきた『野焼き』文化によって生まれた、阿蘇特有の景観であることをご存知でしたか。すすきの群生は一般的に、ほうっておけば雑木林となつて、樹木が繁茂し、森林化という未来を辿ります。しかし毎年一回、一帯の野焼きを行う阿蘇地域は、草原への樹木の侵入を遠ざけることで、このような広大なすすきの景観が今もなお残り、人々の目を楽しませてくれるの

です。

外輪山のすすきを自転車で楽しむなら、ミルクロードはいかがでしょう。ミルクロードとは阿蘇の北外輪山の上をぐるりと囲んだ県道の愛称のこと。広大な牧野の美しくなだらかな地形をゆったりと走るこの道路は、阿蘇山、カルデラを一望できる大観峰や、そのほかの展望所が点在し、サイクリストたちに人気の高いコースとなっています。

サイクリストも燃料がなければ走れない！ぜひ阿蘇一押しのグルメで栄養補給してください！
地元も認めるおいしさの「阿蘇のうまいもん」を紹介します。

【果物】果実の里カップルズ

安全安心の果物を 届けたい

30年前より先代が営んできた『阿蘇観光りんご園』を息子の中山晴喜さんが引き継ぎ、一年を通して果物狩りが楽しめる農園として平成11年に『果実の国カップルズ』は開園しました。農園では3種の果物“いちご（12月上旬～5月下旬）”“りんご（8月下旬～11月上旬）”“ぶどう（9月初旬～10月中旬）”の収穫体験が楽しめ、もぎたて果実ならではの、甘くみずみずしい旬の味を楽しむことができます。生産者の顔が見える環境づくりや、農業を極力使用しない栽培にも力を入れ、安心安全の農園づくりに力を入れているカップルズ。売店では農園の果実を使ったアップルパイやイチゴのソフトクリーム、無農薬栽培のリンゴで作ったジャムなど、カップルズの優しさがギュッと詰まった商品が揃っています。

果実の国 カップルズ

〒869-2222 熊本県阿蘇市西町1003-3

TEL 0967-34-0100

ホームページ <http://www.at-ml.jp/59687/>



旅行で外せない楽しみのひとつといえば、お土産。
阿蘇に来たことを思い出すきっかけになるような、とっておきのお土産を紹介します。

ASO MILK

こだわりが詰まった “あかい牛乳”

阿部牧場の牛乳ブランド“ASO MILK”。阿部牧場は「牛づくりは草づくり、草づくりは土づくり」を理念に、循環型酪農を実践している牧場です。阿蘇の自然ですくすくと育った牛のお乳を、63℃30分で低温殺菌することで、牛乳本来の風味が損なわれず味わいが豊か。口に入れた瞬間に優しい乳の香りが広がり、まるやかな甘みが鼻先に抜けてゆくような、まさに搾りたての味。その品質は食品のミシュランと言われる『国際味

覚審査機構』にて最上級の三ツ星を獲得するほど (!!)。また、赤を基調とした牛乳瓶のデザインも世界的なデザインコンクール『Pentawards2011』において最高賞のゴールドメダルを受賞するという品質の高さ。表面デザインの『赤い縦線』は「牧場からあなたへまっすぐに届きますように」、また、飲み終えたあと背面に現れる『赤い横線』は、表面の縦線と重なり合うことで「あなたにプラスになりますように」との願いが込められているとのこと。そんなこだわりのASO MILK、販売店舗はほとんどが阿蘇圏内に限られているので、やはり阿蘇みやげの“とっておき”になりそうですね。



有限会社 阿部牧場

〒869-2302 熊本県阿蘇市三久保47-1

TEL 0967-32-0565

ホームページ <http://www.aso.ne.jp/abe-farm/>